

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【宮城県】

1 実践テーマ	【 I V 】
2 実施対象者	実施学校 山元町立山下小学校 実施学年 第4学年 児童 39名 第5学年 児童 34名 第6学年 児童 32名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすバスケットチーム「宮城マックス」との交流を通して、障害者スポーツに対する理解を高めるとともに、パラリンピックへの興味・関心を高める。 ・交流を通して、他者を思いやり、相手の立場を尊重する「共生の心」を育むようにする。
5 取組内容	1 出会いの会 (1) 宮城マックスのみなさんの入場 (2) 校長挨拶 宮城マックスの紹介 自己紹介 (3) 活動予定の説明  2 体験活動 (1) 競技用車いすと一般の車いすの違いを知ろう。 ・実際に体験し、違いを実感させる。 (2) 車いすバスケットのルールについて知ろう。 ・体育で行っているバスケットボールとの違いを知る。 (3) 選手によるデモンストレーションを見学しよう。 (4) ミニゲームを行おう。

- 3 監督や選手のみなさんから話を聞いたり質問したりする。
 (1) 東京オリンピック・パラリンピックに向けての話
 (2) 夢や志を持って生活することの大切さについての話
 (3) 子供たちに伝えたいことの話



- 4 終わりの会
 (1) 感想発表
 (2) お礼の言葉
 (3) 宮城マックスのみなさんから
 (4) 終わりの挨拶

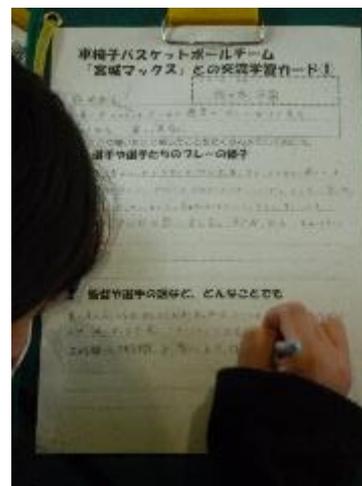
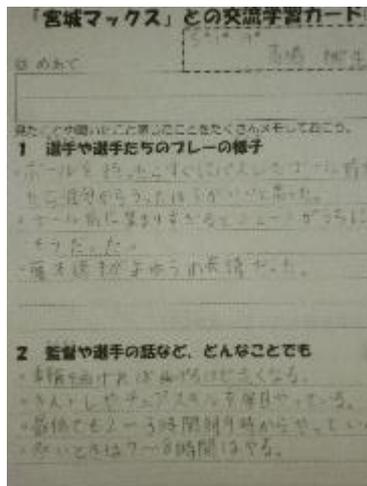


- 5 事後指導
 (1) 学年ごと学習カードを活用し、活動を振り返る。
 (2) お礼の手紙や作文を書く。

6 主な成果

- 活動を通して、児童からは次のような感想が寄せられた。

- ・今まであまり知らなかった車いすバスケットボールをこの機会にすることができて良かった。
- ・自分のやりたいことを見つけることが大切だと感じた。
- ・体のどこかに障害があってもスポーツができることに誇りを持っていることがすばらしいと感じた。
- ・車いすバスケットへの印象が変わりました。「障害を持っていることに対して不幸ではない。」という言葉が印象に残った。
- ・何のためらいもなく義足を外し、足を見せるのには驚きました。それはとても勇気のいることだと思いました。バスケットの面でも人として尊敬できる人でした。
- ・車いすバスケットのよさが伝わった。藤本選手に憧れた。パラリンピックを見たりして応援したい。また、色々なパラリンピック競技を体験してみたいです。



<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的な学習の時間の単元である「人権福祉」に位置付け、児童の学びとなるよう工夫する。 ○ パラリンピックについて、図書資料やインターネットを活用し調べ、学習に対する課題意識を持たせるよう工夫する。 ○ 障害者スポーツの視点ではなく、アスリートという視点で学習が展開できるよう工夫する。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「人権福祉」の観点のみから学習を展開するのではなく、スポーツやアスリートの観点で学習を進めていく必要がある。 ○ 夢や志の視点を大切にしたい指導計画の工夫が必要である。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 非常に有意義な取組となった。年間計画に位置付け、継続した取組を図りたい。